

【注意点1】

理論

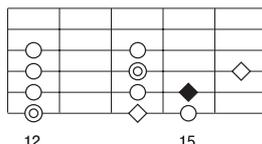
ペンタ+2音で悲しさ増量！  
ナチュラル・マイナーを覚える

メイン・フレーズ1&2小節目では、Eナチュラル・マイナー・スケールを使用している。マイナー・ペンタは5つの音で構成されているが、ナチュラル・マイナー・スケールはそのマイナー・ペンタの5音に2音（2nd音&6th音）を加えた7音で構成されているのだ（図1-a）。P.21の注意点3でも解説した2nd音（9th音）が加わるので、マイナー・ペンタよりも悲しい雰囲気を生み出しやすい。メイン・フレーズ1&2小節目は、16分音符3音区切りで細かく上下行していくナチュラル・マイナーの王道フレーズになるが、演奏前にポジションをしっかり覚えておくと、音をスムーズに繋げていけるだろう（図1-b）。

図1-a Eナチュラル・マイナーの仕組み



図1-b メイン・フレーズ1&2小節目のポジション



【注意点2】

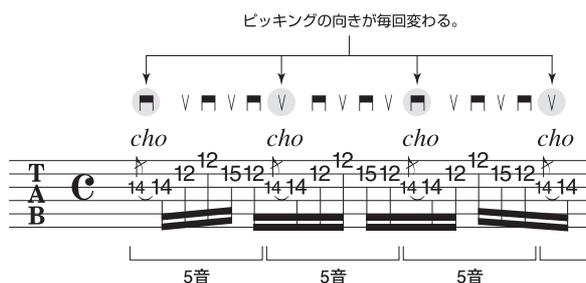
理論

オルタネイトを感わす  
16分の5音区切りフレーズ

メイン・フレーズ3&4小節目のチョーキングによるラン奏法では、リズムに注意してほしい。ここではすべてオルタネイトで弾くが、16分の5音区切りで、かつ細かく弦移動していくため、ピッキングの順番が乱れやすい。特にチョーキングを強くピッキングの向き（ダウン&アップ）が毎回変化していくので気をつけること（図2）。ちなみに、このような細かく弦移動していくフレーズはエコノミー・ピッキングで弾くこともできる。しかし、エコノミーで弾くと、どうしてもニュアンスが変わってしまい、また力強さも出しづらくなるのだ。ここでは王道ロックのソラらしいパワフルさを演出したいので、必ずオルタネイトで弾き切ろう。

図2 16分音符の5音区切りフレーズのオルタネイト

・メイン・フレーズ3小節目



【注意点3】

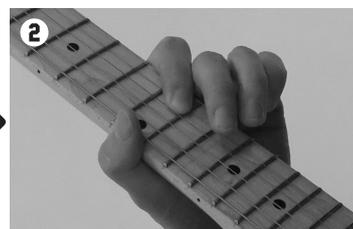
左手

余弦のミュートに注意しながら  
中指1本でチョーキング！

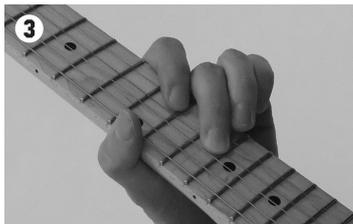
メイン・フレーズ3&4小節目のラン奏法は、16分音符で細かく弦移動していくため、チョーキングをすべて中指のみで行なう（写真①～④）。中指1本のみなので、音程が上がり切らないことがあるので気をつけよう。特に初心者は、指を立てて指先で弦を持ち上げようとする人が多いので、指を寝かせて指先と腹部分の間くらいで弦を捉えてチョーキングを弾くように心掛けてみてほしい。このようなラン奏法は、多少ワイルドな雰囲気【註】を出した方がよいが、ノイズが多くなってしまうのはNGだ。中指の先端と親指を駆使して、低音弦を的確にミュートしよう！



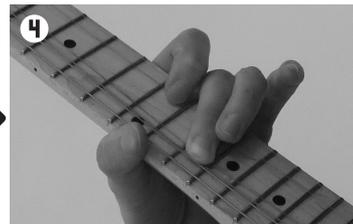
3小節目1拍目の2弦15fの押弦時。



2弦12fの押弦時には、中指のチョーキングを意識する。



中指で3弦14fをしっかり押弦して……



手のひねりを使いながら、1本指で弦を持ち上げよう！

【ワイルドな雰囲気】 フロ・ギタリストが感情の赴くままに荒々しくソロを弾くことがあるが、実は彼らは余弦のミュートを的確に（自然に）行なっていることが多い。ノイズ対策ができてこそ、初めて激しいプレイが可能になるのだ。